



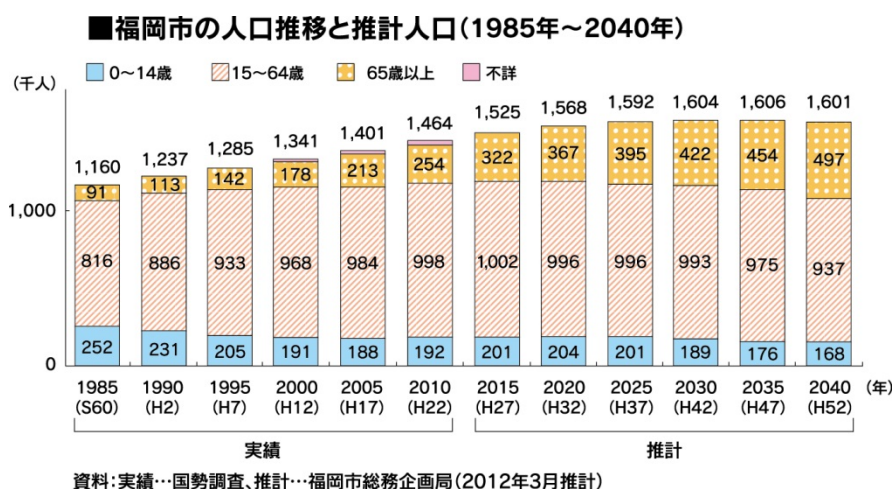
第4章

交通を取り巻く現状と課題

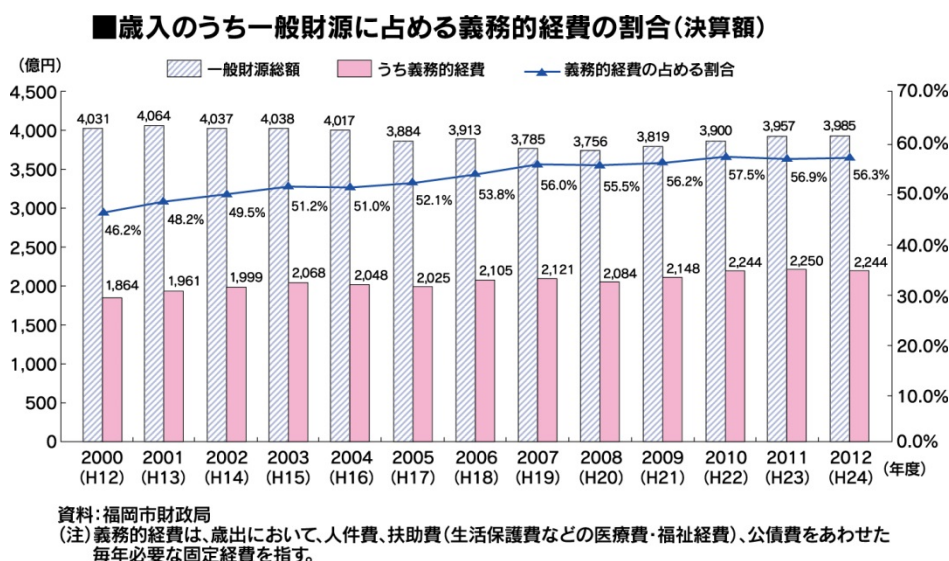
第4章 交通を取り巻く現状と課題

1 都市の骨格を形成する総合交通体系の構築

- ・福岡市の人口は、平成 47 年（2035 年）頃まで増加が見込まれるものの、その後減少に向かいます。
- ・年齢区分別では、65 歳以上人口が増加し高齢化は一段と進む一方、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は平成 42 年（2030 年）頃までほぼ横ばいで推移しますが、その後、徐々に減少していきます。
- ・今後の交通施策の推進にあたっては、このような人口構造の変化に伴う交通需要動向の変化を見据え柔軟かつきめ細やかに対応するという視点が重要です。

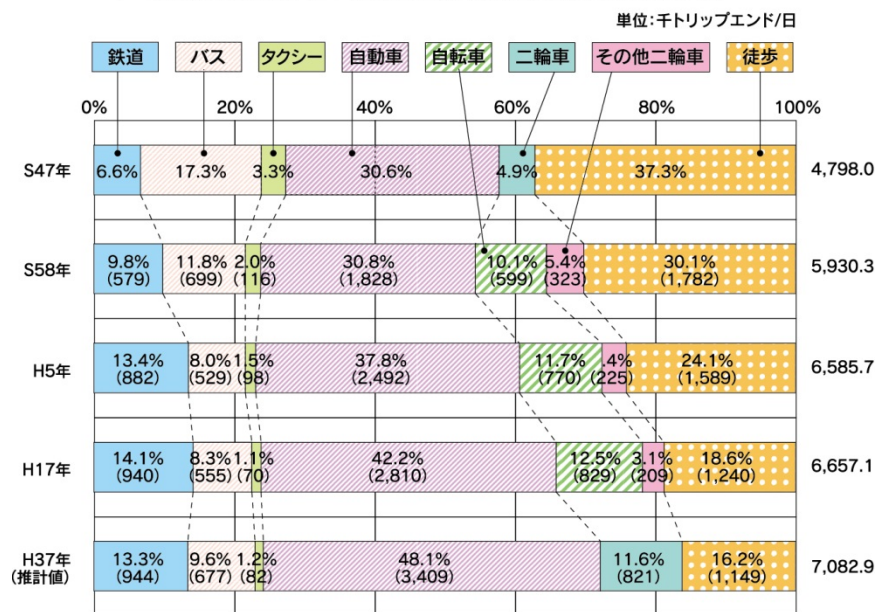


- ・福岡市の財政状況としては、市税収入などの一般財源の大幅な伸びは期待できない中、扶助費などの義務的経費が増加しており、新たな課題への対応のために使える財源が減少していく見込みです。
- ・このような状況を踏まえ、事業の選択と集中、既存ストックと新たな技術の活用、様々な主体の積極的な協力と参画が重要です。



- ・移動の際の交通手段構成をみると、自動車利用の割合が増加する一方で、公共交通利用の割合は横ばいとなっており、平成 37 年（推計値）においても、この傾向のままでいくと、自動車利用の割合の増加が続くと見込まれるため、公共交通への転換がますます重要となっています。

■福岡市における代表交通手段別の人の動きの推移

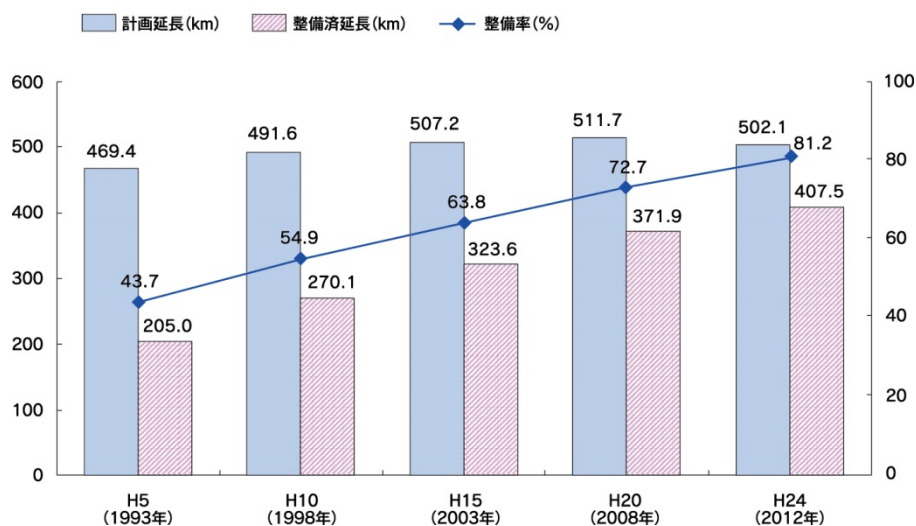


資料:北部九州圏パーソントリップ調査

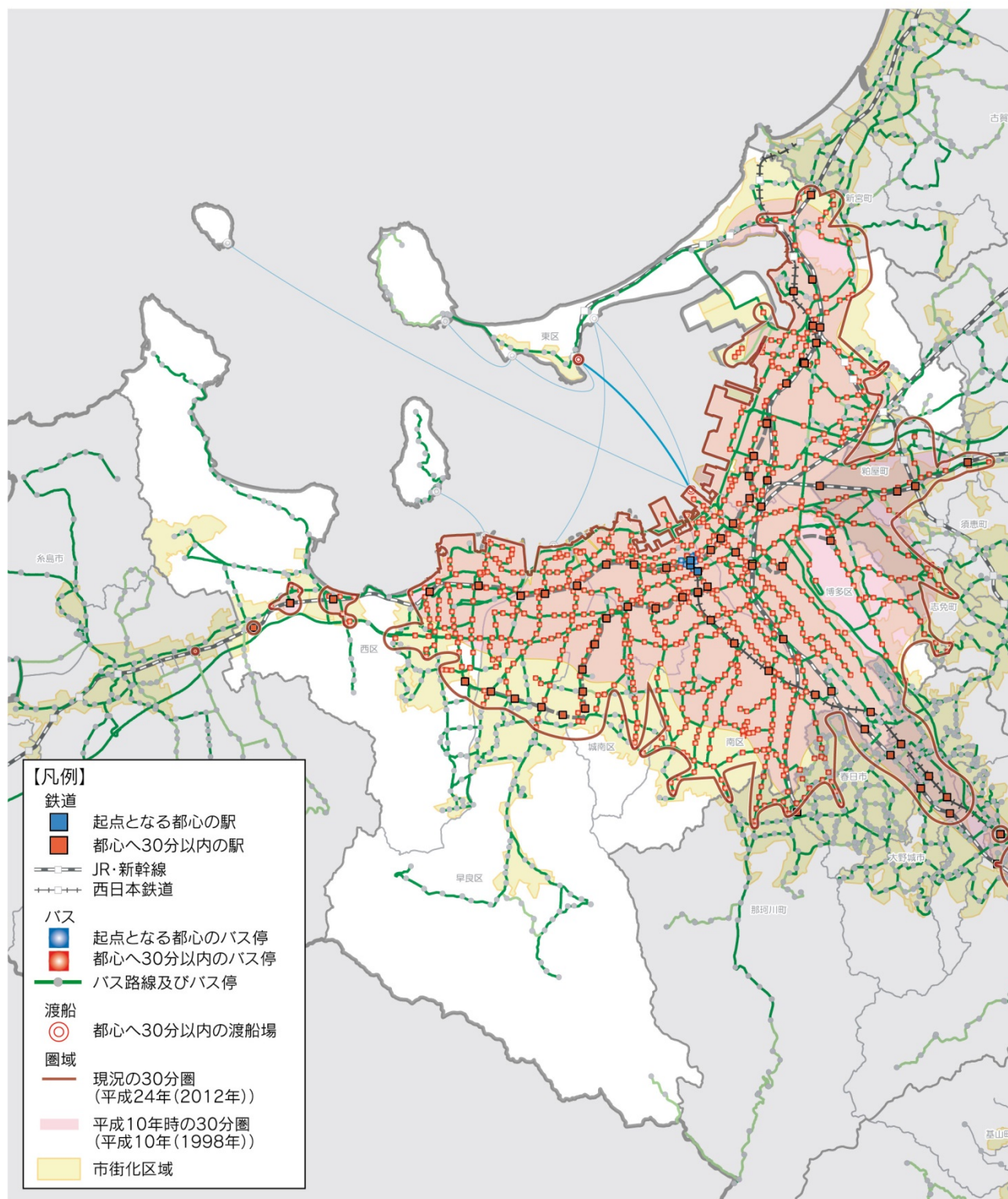
※地下鉄七隈線延伸事業の想定利用者数は含んでいない。

- ・地下鉄や都市高速道路などの整備が進み、交通基盤の骨格が形成されつつあり、公共交通機関による 30 分圏域も拡大するなど、公共交通の利便性は向上しているものの、都心部を中心に道路交通混雑が依然として見受けられます。
- ・引き続き、必要な交通基盤の整備を進めるとともに、これからは、今まで整備されてきた既存ストックを最大限に活用するという観点から、鉄道やバス相互の連携を強化し、公共交通全体を利用者にとって分かりやすく使いやすいものとするのが重要です。

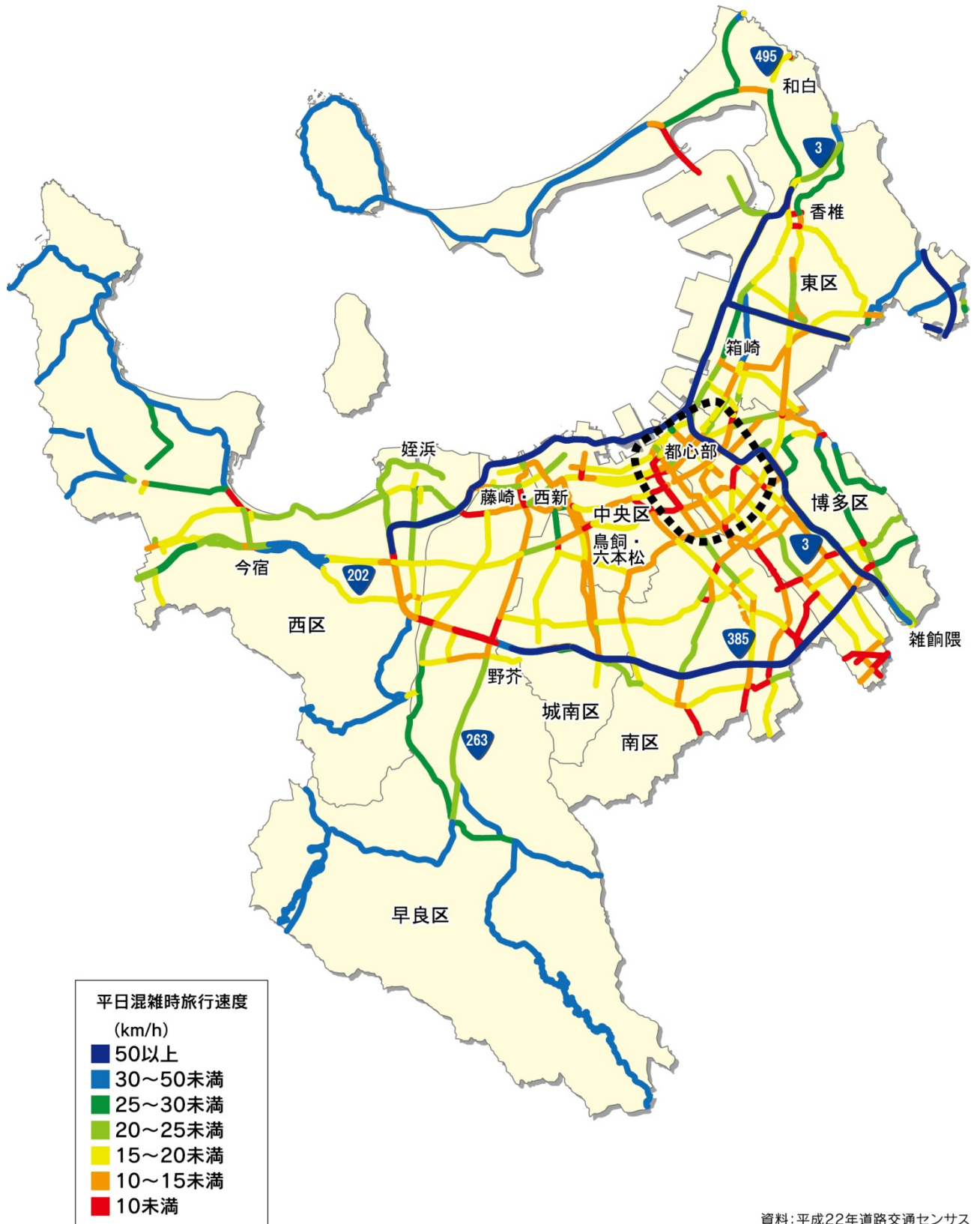
■都市計画道路の整備状況の推移



■公共交通機関による30分圏域



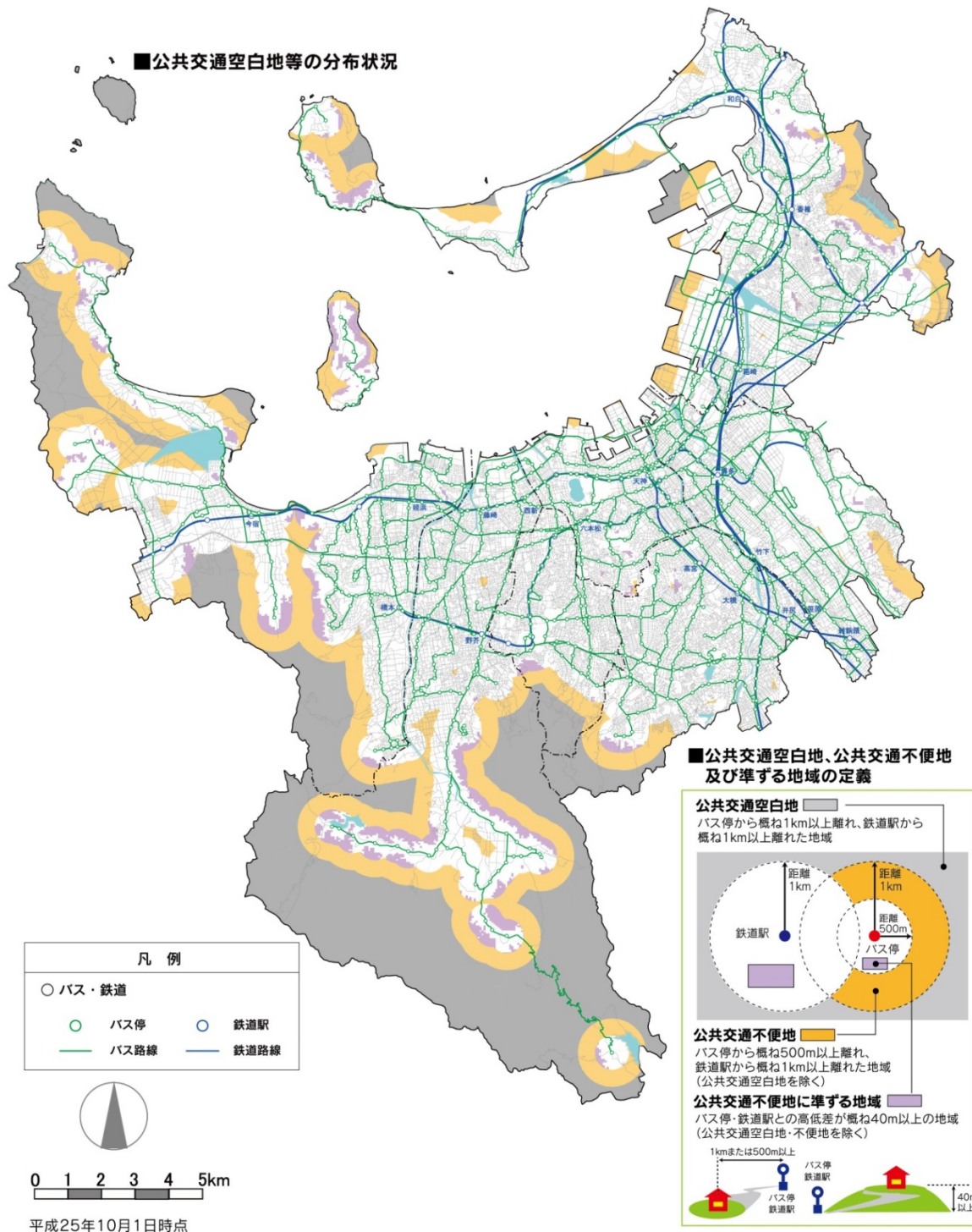
■平日混雑時旅行速度



資料：平成22年道路交通センサス

2 子どもから高齢者まで誰もが安全・安心な交通

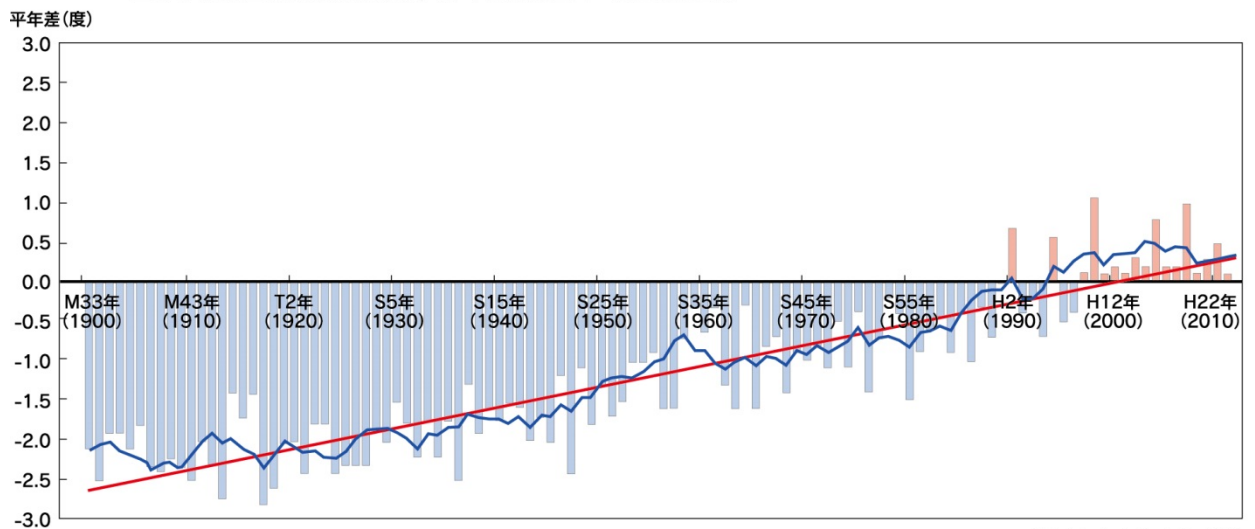
- ・郊外部を中心に、人口減少などによりバス利用者が減少し、バス路線の休廃止が相次いでいます。
- ・一方、高齢化の進展に伴い、自動車の運転が困難になる人が増えることが予測されるため、バス路線の休廃止に伴い公共交通が空白となる地域では代替交通の確保が必要です。また、丘陵地など、公共交通が不便な地域における生活交通の確保が課題となっています。



3 環境にやさしい交通

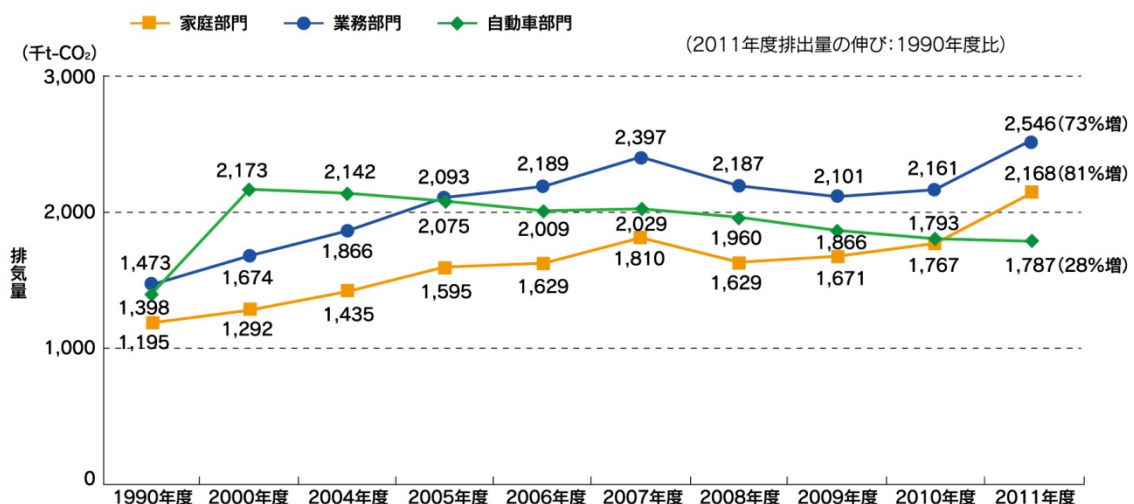
- ・世界的に地球温暖化が進行するなか、福岡においても気温の上昇が観測されています。また、二酸化炭素排出量は基準年度（1990年度）と比べて増加しており、排出削減に向けた取組みが重要です。

■福岡管区気象台における平均気温平年差の推移



資料:気象庁「気象統計情報」

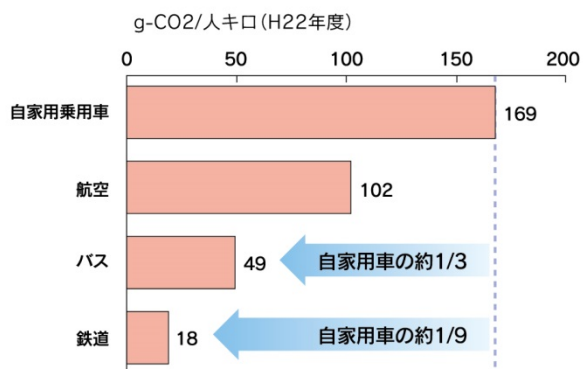
■福岡市における部門別の二酸化炭素排出量



資料:福岡市環境局

- ・二酸化炭素排出量が比較的少ない公共交通利用者の推移は横ばいである一方で、自動車利用割合は増加しており、公共交通への利用転換促進とあわせ自動車単体の二酸化炭素排出量削減も必要です。

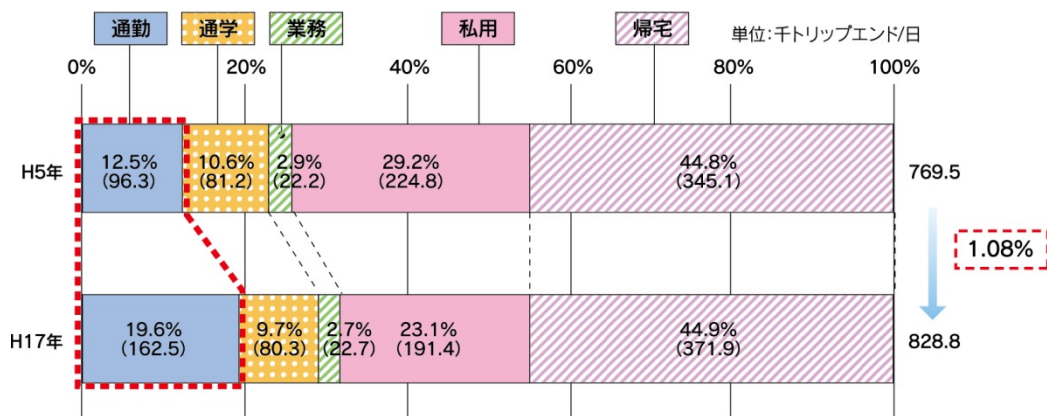
■輸送量当りの二酸化炭素排出量(旅客)



資料:国土交通省

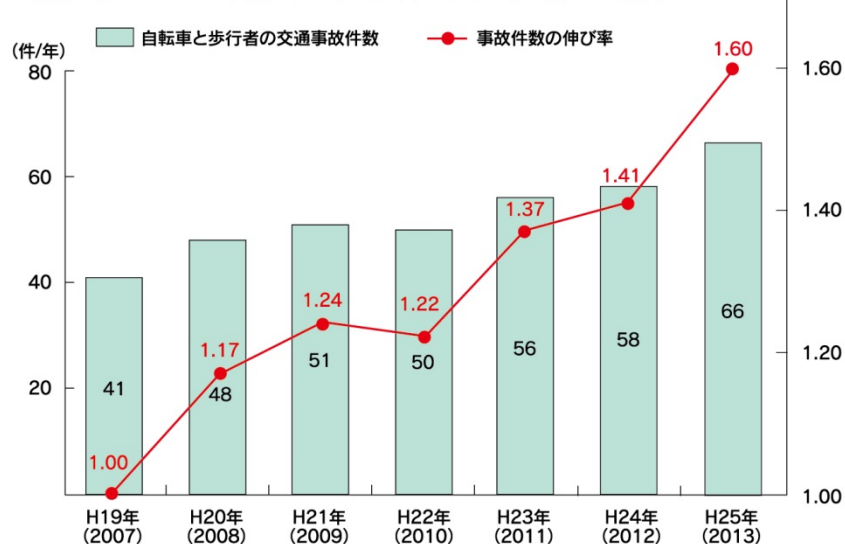
- ・自転車利用数は増加しており、特に通勤目的での利用が増加しています。一方で、歩行者と自転車の事故も増加しており、自転車通行空間の確保や交通ルールの遵守、自転車交通マナーの向上などが必要です。

■福岡市における自転車の発生集中量



資料:北部九州圏パーソントリップ調査

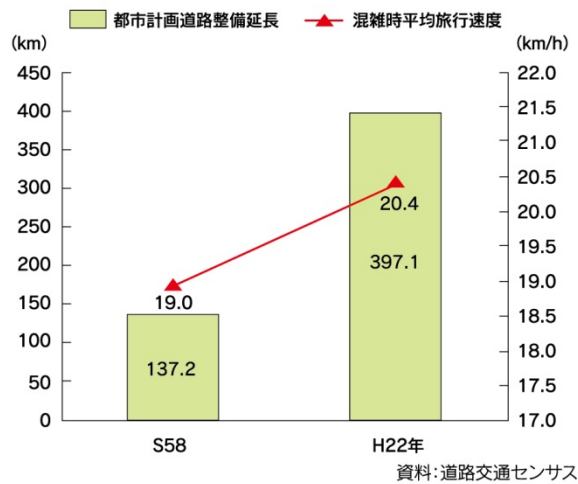
■福岡市における自転車と歩行者の交通事故発生件数



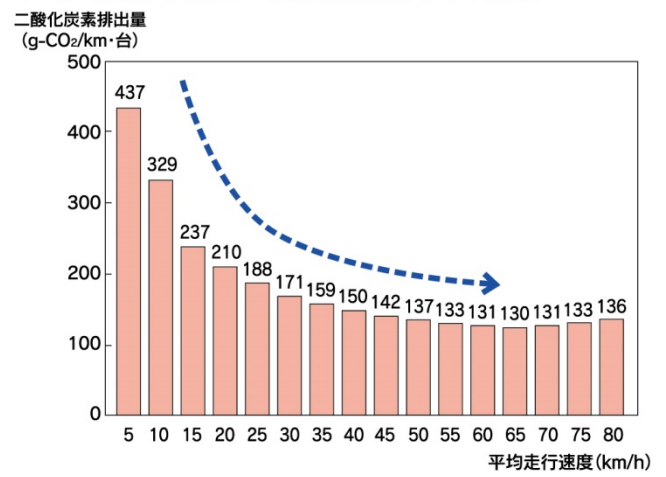
資料:福岡県警察 交通事故統計資料

- ・都市計画道路の整備が進み、混雑時旅行速度は向上したものの、他都市と比較すると低くなっています。
- ・走行速度の向上が二酸化炭素排出量の抑制につながることから、更なる道路交通の円滑化が必要です。

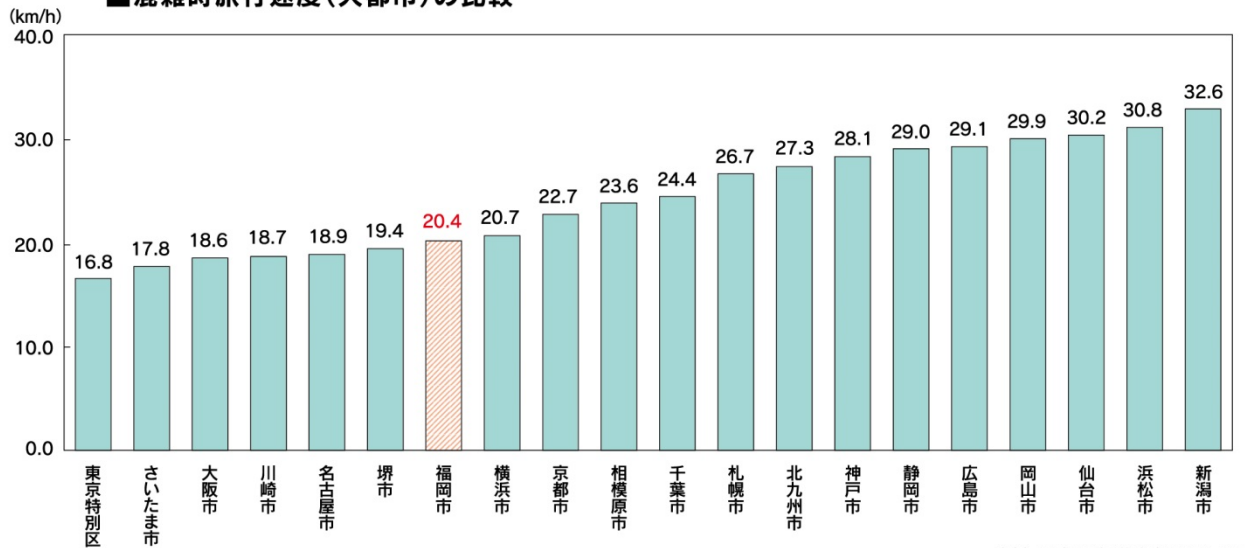
■福岡市の都市計画道路整備延長と混雑時旅行速度の変化



■平均走行速度と二酸化炭素排出量の関係



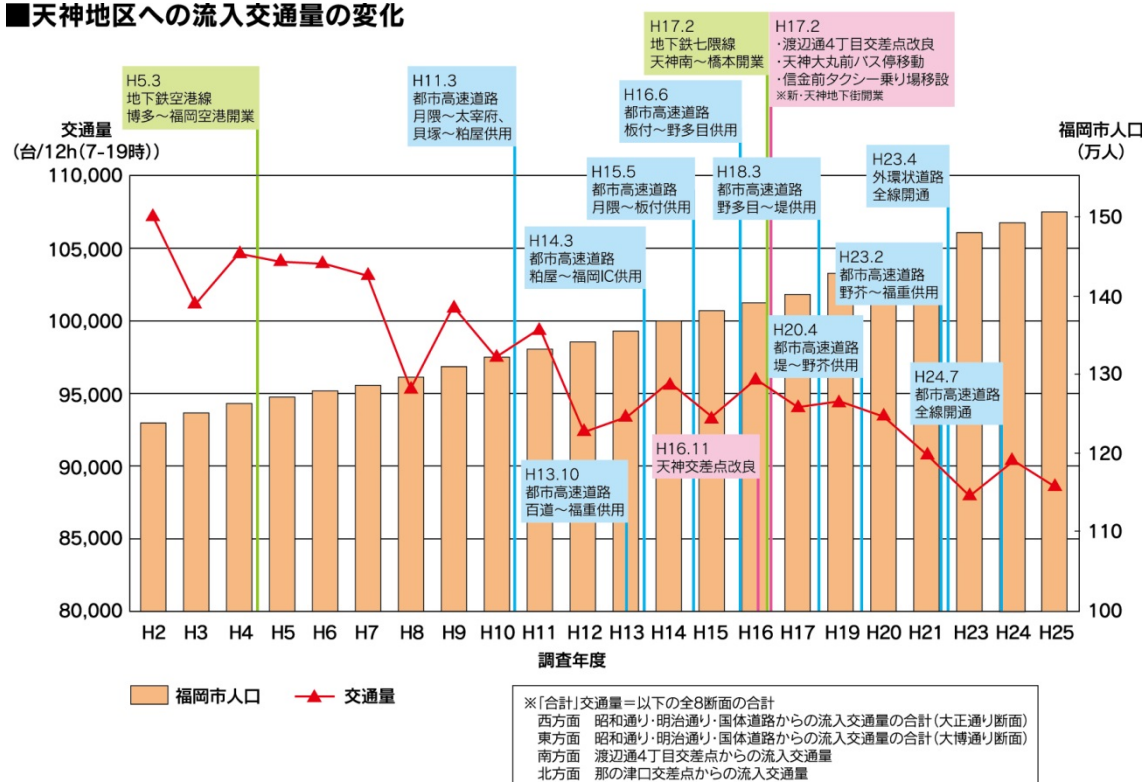
■混雑時旅行速度(大都市)の比較



4 活力ある都心部を支える交通

- ・平日における天神地区への流入交通量は減少しつつあるものの、依然として道路交通混雑が見受けられます。
- ・また、休日を中心に多くの来街者が集中し、にぎわいや活力を創造する一方、駐車場の空き待ちをする自動車による交通混雑や駐車場へアクセスする自動車と歩行者の交錯が見受けられます。

■天神地区への流入交通量の変化



- ・タクシーの路上待機については、様々な取組みにより改善が見受けられますが、引き続き継続的な取組みが必要です。
- ・物流交通については、共同集配システム導入などの取組みが進んでいますが、今後、民間建築物の建替えにあわせた荷さばきのための駐車施設の確保などが必要です。
- ・自転車利用数は増加しており、特に通勤目的での利用が増加しています。一方で、歩行者と自転車の事故も増加しており、自転車通行空間の確保や交通ルールの遵守、自転車交通マナーの向上などが必要です。
- ・天神地区、博多駅地区においては、エリアマネジメント団体による様々なまちづくりの活動が行われています。

■タクシーの路上待機



■天神地区共同集配システム

